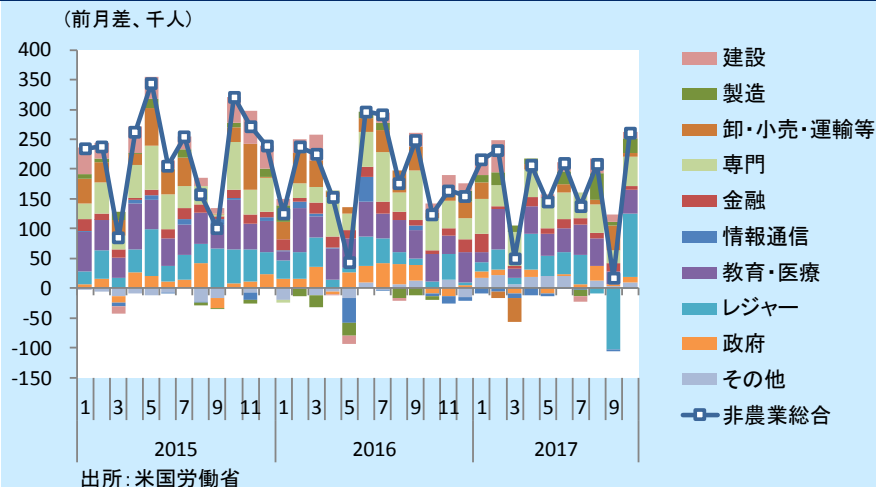


# 米国：雇用統計（2017年10月）

## 一前月からの反動で雇用者数は大幅に増加

*MRI Daily Economic Points*  
November 7, 2017

図表1 非農業部門雇用者数



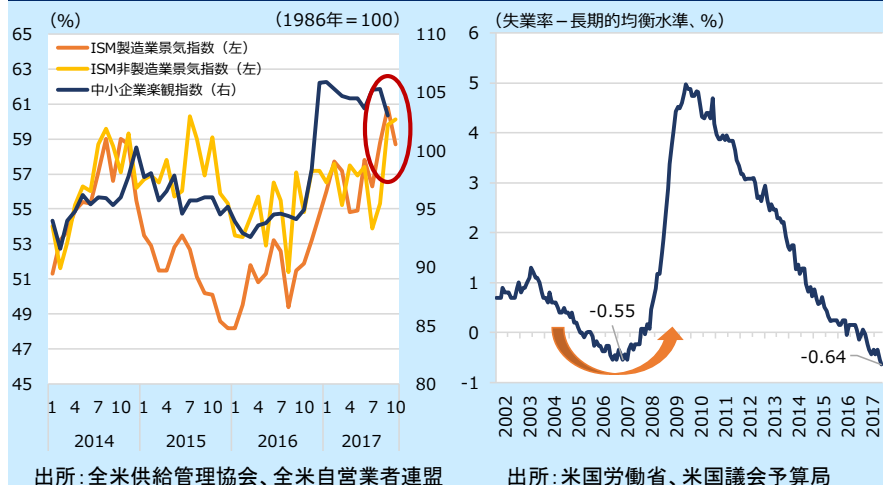
評価ポイント

### 今回の結果

- 17年10月の非農業部門雇用者数は、前月差+26.1万人増と、前月(同+1.8万人増)から増加に転じた。16年7月以来の大幅な増加となった。
- 内訳をみると、9月に大幅な落ち込みを記録したレジャー(同+10.6万人)や、専門・ビジネスサービス(同+4.5万人)、教育・医療(同+4.3万人)が大きく増加した。また、ハリケーン被害からの復興需要により、製造業(同+2.4万人)や、建設業(同+1.1万人)も増加した。一方で、小売業(同▲0.8万人)や、情報通信(同▲0.1万人)は2ヶ月連続の減少となった。
- 10月の失業率は4.1%と前月(4.2%)から低下。2000年12月以来の水準まで改善した。労働参加率は62.7%と前月(63.1%)から0.4%ポイント低下。
- 時間当たり平均賃金は前年比+2.4%と前月(同+2.9%)から伸びが低下。16年2月以来の小幅な伸びにとどまった。

図表2 企業の景況感

図表3 失業率と長期的均衡水準の差



### 基調判断と今後の流れ

- 良好な雇用環境が続いている。景況感の大幅改善を背景とする企業の採用意欲の強さに加え(図表2)、ハリケーン被害からの復興需要が雇用者数を押し上げたとみられる。
- 先行きも良好な雇用環境は続くと思込むが、雇用者数の増加ペースはやや鈍ると予想する。現在、失業率は、米国議会予算局が公表している長期均衡水準(4.7%)を0.5%ポイント以上も下回っている(図表3)。過去データを見ると、失業率が長期均衡水準を0.5%ポイント以上下回ると、その後、伸びが鈍る傾向がある。
- また、失業率が改善する中で、賃金の伸びが低いことも懸念される。その背景として様々な要因が考えられるが、①労働市場の Slack が依然として残っていることや、②失職期間の長期化に伴う復職者の労働生産性の低下が、賃金の抑制圧力となっている可能性が高い。